

# RTC

今回の言葉物語は「RTC」を取り上げてみたいと思います。業界用語としては今まで馴染みがほとんど無い言葉ですが、実は我々のまわりにもいろいろな形で存在しています。業界だけに限らず活躍しているRTC、一体どういうものなのでしょうか。

RTCとはリアルタイムクロック(Real time clock)といい、平たく言えば「コンピュータに内蔵されている時計」です。現在ではほぼすべてのパソコン、そして家電製品でも多く導入されており、我々の身近に多数存在している電子部品と言えるでしょう。

## ぱちんこ言葉物語

20

そして我々の業界にその言葉が表立って使われたのは、ご存じ「CRぱちんこAKB48」です。全台一斉ライブは一台たりともズレることなく完璧に行われその様子はユーザーにも驚きと共に迎えられるました。さて、このRTC機能ですが、

我々の業界で実はもつと前に応用して登場していた遊技機があります。2001年にアリストクラートテクノロジーズから発売された「ダブルフェイス」というパチスロです。

このパチスロは、島一斉にAT(小役ナビ)の抽選が行われる機能を備えていました。RTCという言葉の解釈は様々あるかとは思いますが、業界でのRTCを機能として導入した先駆者と言えるでしょう。では何故CRぱちんこAKB48がRTCという言葉を前面に出せるのか、それはRTCという部品の精度や使用方法にあります。

CR AKB48がこのRTCという言葉を用いるに出来た点は幾つかあります。RTCという点に特化した場合、

- ① どのような使用状況でも誤作動を起させない
- ② 商品力を最大に高めるために誤差を生じさせない
- ③ 長期の使用でも耐えうる長寿命の電池が必要

最低この3点はクリアしなければなりません。そうした場合、①では例えば電波の入らない場所に遊技機を設置することを想定すると、RTCは電波時計を受信して調整するタイプは難しいので自立型が望ましく、②では長時間稼働でもズレない高精度RTCが必



RTC機能の先駆け「ダブルフェイス」  
©K.K.ARISTOCRAT Technologies



RTC機能を搭載した「CRぱちんこAKB48」  
©KYORAKU/©AKS

要です。

昔のパチンコをご存じであれば電源を点けた後、徐々に台ごとでデモ画面がズレ始める経験をお持ちかと思えます。温度や振動でも内蔵時計は狂いますので、このような障害に強いものが必要です。また、先述した「ダブルフェイス」では「電源ONからの経過秒数」で抽選が発動しました。そのため、RTCとして機能はしていましたが、一斉発動するにはホールで一斉に電源をONしなければならぬ等の問題がありました。つまりホール側の手間をかけずに商品力を発揮するには機械側で解決する必要があったわけです。

③は、島電源や遊技台電源をほとんどの店舗では一日毎に落しているはずですので、長期使用を想定すると年単位でも他の電源に頼らずRTCが動く、検定期間を考えれば最低でも3年以上は問題無く動く必要があります。RTC部品自体は市場価格でもせいぜい数百円程度のもですが、ホールで稼働することを想定した場合に生じるリスクをこのように回避し、今日でも全国

のホールでライブが繰り返し広げられているのです。

「時間」の幅広い応用へ

今回登場した「CRぱちんこAKB48」は今後の可能性を更に感じさせるものになりました。パチスロエヴァンリースのように期間限定画面が見れるようなものや、今後一定期間の経過で新たなキャラクターが登場して新しい楽しさを提供してくれるものなど、それはパチンコ・パチスロに限らず幅広く応用できるものになるでしょう。

射幸心とは別の次元で「もっと打ち込んで楽しみたい」と思わせ、そして長期に渡りユーザーに新しい感動を提供できる遊技機の登場は、結果的に高コスト体質に陥ってしまっている業界のスパイラル回避にも繋がるのではないのでしょうか。更に、機能が複雑化されると共に商品知識を十分に得られないユーザーも比例して多くなります。このユーザーを逃がさない為にも遊技説明の完備等ケアの必要性も今後更に高まるでしょう。その為にもこの問題を合理的に解決できる道筋を、関係するすべての人々で考えていく必要があるでしょう。

(大和田敏男)

## AKB48で注目の内蔵時計